

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成 30 年 11 月 16 日(金) 第 3 校時
対 象 鹿 児 島 市 立 甲 南 中 学 校
1 年 2 組 (男子 19 名 女子 16 名 計 35 名)
場 所 甲 南 中 学 校 体 育 館
指導者 教 諭 山 下 勘 郎

1 単元 「東アジア世界との関わりと社会の変動」

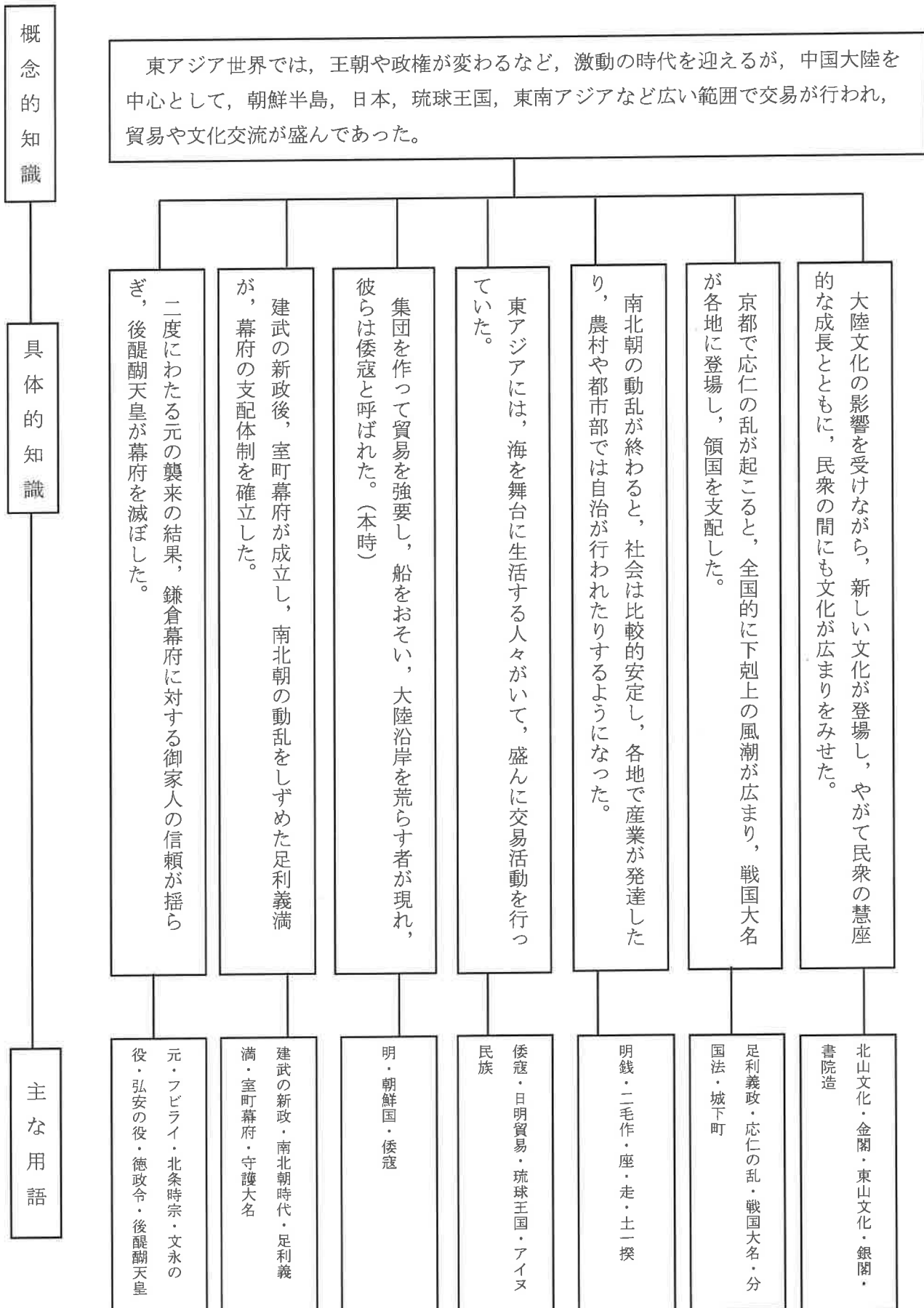
2 単元の考察

本単元では、鎌倉時代の滅亡から戦国時代の始まりまでの中世日本の社会変動を学習する。13～16 世紀の東アジア世界では、元が滅亡し、明が成立する。朝鮮半島においても、高麗が滅び、朝鮮国が成立する。また、琉球では、尚氏が三山を統一し、琉球王国を建国する。このように国際情勢が変動する時期にあつて、日本においても、二度にわたる元寇の結果、鎌倉幕府に対する御家人の信頼が揺らぎ、幕府は滅びることとなる。その後、南北朝時代の内乱を経て、室町幕府が支配体制を確立することになるが、応仁の乱を契機として、戦国時代が始まる。激動の時代を迎えた 13～16 世紀の東アジアであるが、日明貿易、琉球王国との貿易、アイヌとの交易など、絶えず東アジア諸国は、密接な関係をもっており、グローバルな交流のあつた時代でもある。また、中世日本の文化においても、東アジア世界との交流の影響を受けながら、新しい文化が生まれていくこととなる。

生徒は、小学校で、鎌倉時代については、「源平合戦」「鎌倉幕府の成立」を通して、武士の台頭を学習している。また、室町時代については、「室町文化」を中心として、室町時代の成立から滅亡までの過程を学習している。アンケート結果より、鎌倉・室町時代の特色を、多くの生徒が、「武士が活躍した時代」(81%)と答え、各時代で活躍した人物として、「源頼朝」(53%)「足利義政」(43%)「足利義満」(38%)等の人物を挙げた。また、各時代に起きたできごととしては、「鎌倉幕府成立」(22%)、「金閣寺」「銀閣寺」(20%)を挙げ、人物に対して歴史的事象に対しての定着が低いことが分かった。東アジア世界との交流については、「ある程度交流が行われていた」(37%)、「少し交流があつた」(28%)と、日本と東アジア諸国の間で、多くの生徒が何かしらの繋がりがあつたと認識している様子が見えるが、具体的な知識として答えられた生徒はいなかった。

指導に当たっては、東アジア世界の情勢を踏まえながら、武家政権の盛衰の過程や、民衆の生活、文化を捉えさせるよう単元を再構成した。その際に、鹿児島県中学校社会科教育研究会の研究の趣旨を踏まえ、「資料で語る鹿児島県の歴史」を活用し、郷土史との繋がりをもたせることとした。また、単元を通して、東アジア史の年表や東アジア地図等の様々な資料や国内外の史料等を活用し、東アジア世界の中の日本社会であることの意識を常にもたせ、関連付けられるよう工夫した。様々な資料や史料の活用を通して、多面的・多角的に中世日本の社会情勢を考察させ、単元を通して得た知識を基に、東アジア世界と中世の日本との繋がりを捉えさせたい。

3 単元の構造図



6 本時の実際

(1) 主題 「倭寇」

(2) 本時の目標

ア 倭寇図巻等の史料を基に、倭寇の実態を読み取らせる。

イ 鹿児島県内に外国人居留地にちなむ地名が多い理由を考察し、まとめさせる。

(3) 主題の考察

鹿児島県を訪れる外国人観光客は近年、増加傾向にある。特に、本県においては、中国や韓国への出入国数が多く、南の玄関口として、活発な交流が行われている。鹿児島は古来より、交易活動が盛んな場所で、中国や朝鮮との交易も活発に行われてきた。本主題で学習する 14～15 世紀の東アジアでは、元や高麗などの王朝が衰えをみせ、明や朝鮮国などの王朝が建国されるなど、大きな変動があった時代である。しかし、この変動の時代にあっても、活発な交易活動が続けられており、まさにグローバルな社会を構成していた。その東アジア社会に大きな影響を与えたのが、本主題において学習する倭寇である。倭寇は、近現代的な国境が策定される以前の中世において、海洋という境界で活動し、活発な活動をしていた。特に、東アジア社会における中国・朝鮮・日本での、政治権力の盛衰の狭間の中で、自由に日本列島や中国大陆、朝鮮半島を往復し、活発な活動を行っていた。本時で活用する「倭寇図巻」については、倭寇の活動の風俗や実態の実態を捉えた数少ない絵画史料である。この「倭寇図巻」を活用し、史料に触れさせ興味を持たせながら、倭寇の実態に迫らせたい。

生徒は、小学校では、足利義満が中国と貿易を行い、文化や芸術を保護していたことを学習しているが、東アジア世界との交易や繋がりについては、詳しく学習していない。また、本主題で学習する「倭寇」については全く学習していない。アンケート結果によると、倭寇について、「知っている」(12%)と答えた生徒が少数いたが、活動の内容を正しく答えられた生徒はいなかった。また、倭寇について、「知っている」(12%)と答えた生徒の中で、半数の生徒が「海賊」(6%)と答えた。「倭寇」と「鹿児島」の関係性や、島津氏が倭寇の取り締まりを命じられていたこと知っている生徒はいなかった。中世の鹿児島と東アジア社会における人や物の交流については、半数以上の生徒が「少し交流があった」と答えており(63%)、中世の鹿児島と東アジアの間で活発な交流が行われていたことをとらえていない生徒が多いことが分かった。

指導に当たっては、絵巻物等の史料を通して、倭寇の活動の様子を捉えさせたい。まず、本校の校区に隣接する「唐湊」の電停等の身近な地域教材から、アジア諸国と鹿児島との間で、頻繁な交流があったことを確認させる。次に、「倭寇図巻」にどのような人々が描かれているのかを、絵巻物の場面ごとに焦点化しながら、読み取っていききたい。その過程の中で、倭寇がどのような人々で、どのような活動をしていたのかを押さえ、「倭寇図巻」に描かれた倭寇の活動に迫りながら、「倭寇図巻」がどのような内容の絵巻物であるかを考えさせたい。その際に、生徒がもつ従来の海賊像とは、様相を異にする倭寇の姿に触れさせたい。また、グラフや年表を活用し、倭寇の活動時期や回数を読み取らせながら、東アジアの国際情勢をつかませたい。これらの活動を通したうえで、倭寇がどのような活動を展開していたのかをまとめさせたい。また次時の学習の中では、倭寇の構成や倭寇がもたらした貿易品等から、本時で学習する倭寇とは別の側面に焦点化しながら、倭寇の実態を深めていきたい。

4 単元目標

- (1) 東アジア社会における交流を、中国の朝貢体制に関心をもたせながら、意欲的に追究させる。
- (2) 中世の日本の社会変動を、東アジア社会との関係を踏まえ、多面的・多角的に考察させ、説明させる。
- (3) 東アジア社会における交流や中国の朝貢体制を、様々な資料から読み取らせ、まとめさせる。
- (4) 中世の日本の社会変動を、東アジア社会との関係を踏まえ、理解させる。

5 単元の指導計画(全7時間)

学習内容 □は、東アジア世界との関連	時間	評価規準				資料で語る 鹿児島県の歴史
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
モンゴル襲来と日本 モンゴル帝国・元の襲来	1	蒙古襲来絵詞等の史料を基に、元の襲来について、意欲的に追究することができる。	幕府が滅亡した理由を、元の襲来や社会の変動から考え、まとめることができる。			P20「モンゴル襲来と鹿児島」
南北朝の動乱と室町幕府	1		室町幕府と鎌倉幕府のしくみを比較し、その特徴を説明することができる。		南北朝の動乱から室町幕府成立までの過程を理解することができる。	P23「日本一長い裁判文と南北朝の戦い」 P24「南北朝時代の薩摩と大隅」
倭寇と東アジア社会 倭寇	1 本 時	倭寇図巻等の資料に興味をもち、その実態について意欲的に追究することができる。		倭寇図巻等の史料をから、倭寇の実態を読み取ることができる。		P25「倭寇と勘合貿易」
東アジア社会との交流 倭寇・日明貿易・琉球王国 アイヌ民族	1		中国の朝貢体制を踏まえながら、史料をもとに日明貿易の特色をまとめることができる。	東アジア社会との交流の様子を、倭寇がもたらした貿易品等をもとに読み取ることができる。		P25「倭寇と勘合貿易」
産業の発達と民衆の生活 明銭・日明貿易	1		室町時代の産業の様子を絵画や史料をもとにまとめることができる。		農業や商業・手工業などが発達し、民衆の力が伸びてきたことを理解する。	P26「島津氏と国人一揆」
応仁の乱と戦国大名 鉄砲伝来・大友宗麟・天正遣欧少年使節	1	戦国大名の登場とその支配体制について、意欲的に追究しようとする。			応仁の乱の原因や背景、その後の社会の変動について理解している。	
室町時代とその広がり 禅宗・桂庵玄樹・朱子学	1	室町時代の文化を、現代の文化との繋がりを基に、意欲的に追究することができる。		室町時代の代表的な作品を基に、室町文化の特色を読み取ることができる。		P28「桂庵玄樹と薩南学派」
全7時間における 各評価観点の配当時数		4	4	3	3	

(4) 本時の展開(4/6) 評価項目◆

過程	時間	学 習 の 流 れ	指導上の留意点	資料・史料等
導 入	5	1 校区付近の地名から、中世における人々の交流について知り、本時の学習内容に興味をもつ。	1 「唐湊」の地名から、中国、朝鮮、日本間で人々の往来があったことを知る。また、映画やアニメに登場する海賊像を想起させたうえで、本時の学習課題を提示する。	資料1 唐湊電停付近の様子
		【学習課題】中世の海賊の活動の様子を、絵巻物や資料等をもとに探ろう。		
展	3	2 倭寇図巻の倭寇と明軍の戦闘場面より、どちらが倭寇を描いている絵なのかを答える。	2 倭寇と明軍の絵を比較させ、どちらが倭寇を描いているのか判断させ、意思表示カードを提示させる。	史料1 倭寇図巻
	4	3 海賊の構成を知ったうえで、倭寇図巻左側の明軍側の様子を見て、どのような巻物なのかを考え、発表する。	3 海賊の構成を確認させたうえで、倭寇図巻左側に焦点化し、左側に描かれた人々の様子を読み取らせる。	
	6	4 「倭寇」が、どのような人々なのかを確認し、倭寇図巻左側、戦闘場面を見せ、どちらが倭寇を描いている絵なのかを答える。	4 倭寇という語句の意味を把握させ、倭寇のパネル等を用いて、生徒がもつ海賊像とは異なることを確認する。そのうえでどちらが倭寇を描いているのか判断させ、再度、意思表示カードを提示させる。	史料2 学府全編 パネル 異称日本伝
		◆ 倭寇図巻等の資料に興味をもち、その実態について意欲的に追究することができる。		
	15	5 倭寇図巻の全体を見て、どのような話の絵巻物なのかを班で考え、発表する。	5 倭寇図巻を自由に見せ、描かれている内容について、班で考えさせ、発表させる。発表後、それぞれの場面に焦点化しながら、倭寇図巻の全体像を共有させる。	
		◆ 倭寇図巻等の史料をから、倭寇の実態を読み取ることができる。		
開	5	6 資料から、中国で書かれた地図を見て、海賊の根拠地が鹿児島にあったことを知る。	6 史料から、「日本」「薩摩」「琉球」「対馬」等の文字を読み取らせる。	史料3 籌海図編
	5	7 「倭寇」の発生回数のグラフと歴史年表を活用し、東アジアにおける情勢を知るとともに、郷土資料集で、倭寇の実態を確認する。	7 年表を活用して、東アジア情勢を確認しながら、倭寇の活動時期や回数を読み取らせるとともに、郷土資料集を活用して、倭寇について確認させる。	グラフ1 倭寇発生回数 年表 郷土資料集
	4	8 本時の学習内容を踏まえて、倭寇の活動についてまとめる。	8 本時の学習内容を踏まえて、倭寇の活動についてまとめさせる。	
		倭寇は、国家の力が弱まったり、貿易がうまくいかなかったりすると、略奪行為を働いた。		
終 末	3	9 倭寇のその後の様子から、日本に倭寇が与えた影響を知る。また、鹿児島県内に外国人居留地にちなむ地名が多いことを知り、次時の学習内容を知る。	9 鉄砲伝来や王直の活躍等に触れ、その後の日本や鹿児島に与えた影響を考えさせる。また、外国人居留地にちなむ地名が多いことに触れ、次時の学習につなげる。	グラフ2 倭寇発生回数 写真 王直銅像 資料2 外国人居留地にちなむ地名